

Issues – 日本固有の安全認証取得要件 及び JET系統連系認証 (1/2)

1. JETの実質独占状態

⇒安全基準であるJIS規格を認証する第三者認証機関は複数あるが、系統連系規定に基づいた認証を事実上独占。

(試験機関での競争原理が働かない)

⇒更にJETは、JET以外で発行されたJIS認証書をそのままでは受け付けない。

※なお、弊社経験では、JET試験内容がブラックボックス化されており、試験方法が不明確。

2. 認証取得にかかる費用が高額

⇒500万～1000万円程度と理解。前述の通り部品変更毎に必要なになるので、結果として高価となりうる。

3. 取得まで試験開始後1年以上の期間を要する

⇒安全認証 6ヶ月～、系統連系認証9ヶ月～

⇒認証試験自体をJETの施設で実施する必要があるため、数ヶ月の待ち期間がさらに発生する事例もあり。

Issues – 日本固有の安全認証取得要件 及び JET系統連系認証 (2/2)

4. JET認証を取得した場合でも、全数試験が求められる (JET認証手引により規定)

要求内容は主に製造品質ではなく、国際規格では求められない過度な製品品質にかかる機能確認試験。

※国際規格でも全数試験の要求はあるが、主に**製造品質に対する簡易的な試験**のみ。

日本では**全数に対して実運転試験及び型式指定レベルのテストが求められる。**

試験項目は特別な設備を要するため、製造工場への専用テストベンチ設置が必要。**1ライン数百万円～の設備投資**
他国向け製品と比較し、日本向けでは生産効率が**半減もしくはそれ以上悪化**と推定。

5. 製品改良時の認証書更新作業の手間を要する

- ✓ 安全認証から更新が必要となり数ヶ月の期間を要する可能性がある。
- ✓ 事態回避のために**大幅なコストダウンに繋がる変更ができない**(そもそも検討しない)のではないかと推測。

Tesla – Powerwall (家庭用蓄電池)



Tesla – Megapack (系統用蓄電池)



ご提案

日本国内で安価かつ高性能な蓄電池システムを流通させ（含む、事業者の負担減）、
日本政府が掲げる脱炭素社会への移行を加速させるため、諸外国にならった以下制度設計を提案します。

1. 家庭用蓄電池認証の安全基準取得にあたって、JIS認証以外の国際的な海外規格の受け入れ（IEC、UL、IEEE等）
2. 家庭用蓄電池の補助金要件としてJIS規格同等の国際規格(IEC規格等)の受け入れ
3. 一般送配電事業者による、系統連系に際しての全数試験データ提出要求の撤廃
4. JIS認証試験を(日本国内によらず)その他認証試験機関でも実施
5. JET認証で要求されている小さな部品の変更による認証の再取得要求の見直し